

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

<b>事業所名</b>	グループホーム ほほえみ
日付	平成18年12月18日
	特定非営利活動法人
<b>評価機関名</b>	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験9年
評価調査員	老人保健施設介護実務経験6年 居宅支援事業所介護支援専門員経験6年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

## 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して(特に良いと思われる点など)
3度目の訪問をした今日、驚いてしまった。見覚えのある、あの人、この人。表情も、仕草も、語ら いも殆んど変わっていない。昨年の訪問の時は「昨年とあまり変わっていないなあ、すごいなあ！」 位の印象だったが、今年は違った。代表者の「昨日の暮らしを今日も明日も出来る事を目指してい るだけ」と控え目に話す言葉の重みが、私の胸にずっしりと伝わってきた。初年度の時より、50近く グループホームを訪問して来て、この事がどれ程難しい事が、思い知らされたからだ。「利用者の皆 さんが、いい人達ばかりで、たまたまです」と謙遜する管理者、職員達の日々の努力は相当のもの が感じられる。殆んどの利用者の状態が穏やかで、その人らしさを保ち続けられている事実の根底 にあるものを、訪問の度に発見し、私自身の財産とし、他のグループホームへも提案している。 開設して6年が経過した現在、3人の利用者の看取りを経験し、種々の病気を患う人の治療にも 提携病院のバックアップも得ながら力を入れている。職員の交代も殆んどなく「馴染みの関係」がし っかり築きあげられている事、代表者、管理者、職員が気持ちを一つにして、より良いケアの為話し 合いがしっかり出来ている事等は、言葉にすれば簡単だが実際に実現しているホームは中々ない。 日々の暮らしの中で、「やはり、これは必要な事だな、大切な事だな」と改めて感じたのは、「その 人の能力や好み、そして、今の気分に合わせて、負担にならないよう気を付けながら、出来る限り 持てる力を発揮していただく」という事。その為のメニューや仕掛け、働きかけがふんだんに見られ た。多勢で昼食の巻寿司を巻く中、「私はやらないよ」と廊下の手摺を使って自主トレーニングをす る人もある。何事も強要されず、自主性が尊重された暮らしだからこそ、利用者は朗らかで、私も一 日いて実に楽しい。
特に改善の余地があると思われる点
次のような提案をした
地域のリーダーとして「グループホームのケアを考える会」を主催し、ケアの質の向上に貢献して いる試みは素晴らしいと思う。今後も継続、発展させて頂きたい。 家族会の機能をさらに高め、利用者との大切な絆であると共に、より良いホームを築く為の協力 者を目指すよう働きかけてみては如何でしょうか。 利用者の力をホーム内に留めないで、認知症になってもいつまでも素晴らしい能力が発揮出来 る姿を地域社会へ少しでも多く知らせて下さい。

## I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	グループホームとしてめざしているものは何か		
	私の家族が、また、私自身がグループホームでお世話になろうかと考 える時、一番に頭によぎる事は、「ずっと、ここに住み続けられるのだろう か。どこか、具合が悪くなっても置いてもらえるのだろうか？」という心配 だろう。認知症があり、集団での暮らしが出来ない人を対象としたグルー プホームでも、出来れば最期まで見て欲しい。こういった思いを両手でしっ かり受け止めてくれる、このようなホームは、本人や家族にとっては本 当に有り難い。内科・心療内科・リハビリテーション・透析等のある協力医 療機関の力強いバックアップ体制は、とても心丈夫だ。開設当初から、利 用者が重症化した場合やターミナルケアまで視野に入れたケア体制が整 えられているし、6年間の実績がある。どのグループホームでも、このホ ームのような状況を目指す事は不可能だと思うが、いつまでも認知症ケア の範となるよう願っている。		

## 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	ホームの中央にあるウッドデッキから中庭に降りると、雄大な山並みが 広がっていて、心まで伸びやかになる。新しく作られた園芸コーナーは、 利用者の活動意欲や範囲を広げ、青空の下での楽しみも増えた。2ユニ ットなのに人の流れは流動的で、仕事の内容や気分によって往き来して いる。ユニット間の廊下は、さん達の居場所だ。利用者は多くの人と 交われるし、職員も全員の把握が出来、場合によっては協力し合えて良 い。2ユニットが、まるで大家族のような様相で、良い雰囲気空間づくり となっている。		

## ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

## III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「このホームには、しっかりしたポリシーがある」最初の外部評価の時、直感的にこう感じ た。そして今日、改めてあの直感に間違っていないかと思った。 「日頃思っている事、皆と相談したい事、何でも書いて下さい。書きっぱなししないで、 ノートの中で意見交換しよう」という「なんでもノート」。今日、懐かしいこのノートに再会し、 「一人ひとりの利用者の今、そして歩いてきた道を尊重し、どうしたら安らいで活き活きた 暮らしが出来るか、自分一人でなく、職員みんなと考え合おうとしている」こういった姿勢が 続いている事に感銘を受けた。その人の力と経験、そしてプライバシーがしっかりと守られ ている暮らしの裏に、このような職員の思いや努力の積み重ねがある。職員の手にとどの位 の数触れたらと思うのノートの中味は、このホームの汗の結晶、ホームの歴史と なるだろう。今後もこの地道な努力を続けて頂きたい。		

## IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	「しっかりとしたポリシー」を実感したもう一つの事実は、家族、その他に毎月送っている 「ニュースレター」のコーナーにある「様の近況」で見られる。様の日常の素敵な 所、楽しい場面の紹介は、どのホームでも見られる。しかし、その人の今の現況をこほど 正確に家族に伝えようとしている所はあまりない。しかも、職員の愛情たっぷりも感じさせる 内容で。私は、外部評価に際して常に、「情報は良い事も悪い事もオープンに」と言い続け ている。このホームでは開設当初から、この方針を貫いている。サービスの質の向上へ向 けての基盤は、まさしく、ここにあるのではないだろうか。玄関を一步入った所に、「苦情は、 G、Hほほえみを育てる母と考えています」とある。この姿勢こそ、利用者の笑顔を見続け られる源ではないだろうか。		